

自分を測る

木材科学における居住性研究分野では，“人を測る”ことによって，木材が人に及ぼす影響を把握しようとしています．従来の主観評価（官能検査）に加えて，人の生理的反応の変化に基づく生理応答指標の導入も増えてきました．ばらつく木材とばらつく人のマッチングはただでさえ大変であり，実験を進める過程で「自分の測り方は合っているのか」「こんなにばらついていいのだろうか」と不安を覚えることしばしばです．そこで今回の研究会では，参加者が「そこんところどうなの？」を実体験できる場を企画しました．関心をお持ちの方々が集まって，互いの「tips（コツやツボ）」を交換し合う場となれば幸いです．

主催：日本木材学会居住性研究会

共催：(社)日本木材加工技術協会木質仕上げ部会

日本生理人類学会 Wood / Human Relations 研究部会

協力：(独)森林総合研究所 構造利用研究領域木質構造居住環境研究室

日時：2009年11月20日(金) 13時～18時半

会場：森林総合研究所

内容：

Part 1 唾液アミラーゼ活性を測ってみる

- 1) ラボ実験でのケーススタディ 森川 岳 (森林総合研究所)
- 2) フィールド実験でのケーススタディ 小林大介 (横浜国立大学)
- 3) 自分を測る：精神負荷および嗅覚刺激を受ける前後での自身の唾液アミラーゼ活性の変化を，全参加者が調べます。

Part 2 自律神経系反応，中枢神経系反応を測ってみる

森林総研所有の装置を用いて，同一刺激を与えられた時の複数の被験者の反応を観察します (デモンストレーション) 。

Part 3 フリートーキング (情報交換会)

話題提供

- 1) 唾液アミラーゼ測定恨み節 (仮題) 中村智彦 (東京大学大学院)
- 2) 高齢者施設は大変です (仮題) 櫻川智史 (静岡県工業技術研究所)

会費：2,000円 (唾液採取用チップ代，資料集代)， 情報交換会 3,000円 (学生 1,000円)

連絡先：研究会への参加を希望される方は，下記幹事まで，お名前，ご所属，ご連絡先 (電話番号，メールアドレスなど) をご一報下さい．なお，設備の関係で定員を先着30名といたします．

小林大介 (横浜国立大学) kobadai@ynu.ac.jp

仲村匡司 (京都大学) nakamasa@kais.kyoto-u.ac.jp